

第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価案

中期計画の達成に向け、『優れた業務の達成状況にある』

○ 高く評価すべき事項

- ・ 東京都立産業技術研究センター(以下「都産技研」という。)は、研究開発と技術支援の両面から様々な支援を展開することで、各目標値の達成や中小企業の製品化等に貢献しており評価できる。
- ・ 東京都の施策とも連携して「ロボット産業活性化事業」や「中小企業へのI o T化支援事業」等に取り組み、中小企業のロボット、I o T関連製品の開発支援で実績を上げていることは評価できる。
- ・ 研究開発については、今後の成長が期待される重点技術分野の研究開発を進めることで、共同研究等への発展といった成果を出している。また、都産技研の総合力を生かした「協創的研究開発」を実施するなど、研究開発力の強化に向けた取組を行っており高く評価できる。
- ・ 技術支援については、技術相談、依頼試験、機器利用いずれも高水準の実績を達成している。また、ブランド試験の技術分野の実施による質的な向上に加え、3Dものづくりセクターをはじめとして、各セクターの特色を生かし、中小企業のニーズに即したきめ細かな支援を展開しており評価できる。

○ 改善・充実を求める事項

- ・ 新型コロナウイルス感染症を契機として都産技研のデジタル化を進めるとともに、新たな需要獲得に向けた中小企業の取組を支援することを望む。
- ・ 法人の業務等に係る監査の指摘等を踏まえて、業務運営における改善を実施し、職員のコンプライアンス推進等に確実に取り組むことを期待する。

総 評

第三期中期計画の4年目までの実施状況から見て、優れた業務の達成状況にある。

5年目となる令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止のため、4月から来所による技術相談や依頼試験、機器利用の新規受付を休止した。その後、5月25日に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が解除されたことを受けて、段階的に業務を再開したものの、過去4年間の業務実績と照らし合わせて、すべての項目を同様に評価することは困難である。そのため、見込み評価に当たっては4年間の業務実績を基にし、特筆すべき成果や課題については5年目の実績も評価に反映することとする。

第三期中期目標期間中、東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）は、研究開発に力を注ぐことで基盤研究の成果を共同研究や外部資金導入研究へと展開している。また、技術支援では技術相談、依頼試験、機器利用いずれも高水準の実績を達成するとともに、3Dものづくりセクターをはじめとして、地域性などを考慮した特色のあるセクター等を開設し、中小企業が抱える多様な課題の解決に向けた支援を講じている。

第三期中期目標のコンセプトでもある「東京の産業の発展と成長を支える研究開発と国内外の市場ニーズを的確に捉えた製品開発を支える技術支援の両輪」による支援を着実に推進することで、都産技研の技術力を向上させるとともに、その成果を中小企業の事業化・製品化につなげており評価できる。

研究開発については、成長が期待される「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4つの技術分野の研究を重点的に進めてきた。こうした研究開発を支える体制強化として、各部門の戦略的かつ自律的な事業運営を促進するため、研究テーマの設定や達成目標、運営方法などの方針決定にかかる権限を理事長から各部長に委譲した。加えて、都産技研の総合力を発揮するために、組織の垣根を越えたチーム編成による「協創的研究開発」を実施しており高く評価できる。

技術支援については、技術相談をはじめ、依頼試験、機器利用サービス等を通じて、中小企業の新製品・新技術開発や新事業分野への展開を支える支援を行っている。また、支援体制の拡充を図るため、第三期中期目標期間中に「東京ロボット産業支援プラザ」の開設に加え、高付加価値製品の開発支援を目的として、「3Dものづくりセクター」、「先端材料開発セクター」、「複合素材開発セクター」を開設した。また、3年目となる平成30年度には中小企業のデジタル対応力を強化するため、新たに「IoT支援サイト」を開設した。各施設において、中小企業との共同研究による製品化事例や特許の出願件数の増加など、支援の成果が形として表れており評価できる。

業務運営については、法人の業務等に係る監査において、主に物品管理について指摘・意見を受けている。利用者及び職員の安心・安全の確保やコンプライアンスの推進のために、必要な規程やルールを整備などを早急に進めていくことが望まれる。

(第四期の事業運営に向けて)

第四期では第三期の成果をもとに、都産技研が強みとする確かな技術力を活かし、より一層中小企業の製品開発につながる支援の展開が望まれる。また、東京都が令和元年12月に策定した「未来の東京」戦略ビジョンなど、都の施策にも目配りをしつつ、社会経済環境の変化を的確に捉え、中小企業のニーズに基づき柔軟かつ大胆な施策を講じていくことを期待する。

一方で、新型コロナウイルス感染症を契機として、都産技研においても非対面による依頼試験やウェブ会議による技術相談を開始しており、都産技研のデジタル化を進めるとともに、新たな需要獲得に向けた中小企業の取組を支援することを望む。

研究開発については基盤研究で得られた研究成果をもとに、中小企業や大学等との共同研究を積極的に進めていくとともに、今後成長が期待される技術分野をしっかりと見極め、事業化を見据えた研究開発の実施を期待したい。

技術支援については、都産技研のDX（デジタルトランスフォーメーション）の流れを加速させ、中小企業の複雑かつ多様な技術相談に対してワンストップで対応することが必要である。また、オンリーワンの技術を武器とするブランド試験についても、現場の声やニーズを大切にし、中小企業の製品開発に資する依頼試験の実施を期待する。

情報発信の推進については、これまでもYouTubeやTwitterなどSNSを活用した広報を展開し、研究開発の成果や保有する技術情報の提供に努めている。今後も、都産技研の認知度を向上させるため、情報発信の効果を検証し、適宜見直しを行うなど戦略的な広報活動の推進が望まれる。

環境変化の速い時代だからこそ、都産技研が理念として掲げる「時代の先を読み、技術の力で産業をリードする」ことが中小企業の成長・発展のためには不可欠である。中小企業の事業化・製品化を通じて、東京都の産業の発展を実現するためにも、中小企業のニーズに基づいた事業の運営に努め、産業育成に直結する研究開発と事業化を見据えた技術支援を進めていくことを期待したい。

(その他)

評価単位、全体評価の方法については、第三期中期目標の評価をする上で特段支障は見られなかったことから、改善の必要性は認められない。

なお、評価単位等の設定については、第四期中期目標の内容を十分に踏まえること。

項目 1（基盤研究）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進

1-1 基盤研究

機械、電気・電子、情報、化学、バイオ等の基盤技術分野に対する基盤研究を着実に実施するとともに、中小企業の技術ニーズを踏まえ、付加価値の高い新製品・新サービス開発や技術課題の解決に役立つ技術シーズの蓄積、今後発展が予想される技術分野の充実、都民生活の向上に資する研究を基盤研究として取組む。

なかでも、今後の成長が期待される4つの技術分野を重点として、新産業育成を図る研究に取組み、都内中小企業による新しいサービスの創出に貢献する。

ア) 環境・エネルギー分野

大都市特有の課題である環境浄化に関する技術開発に取り組み、国際競争力を有する環境浄化技術を開発するとともに、再生可能エネルギーなどの研究開発により新エネルギー創出に貢献する。

イ) 生活技術・ヘルスケア分野

感性工学などに基づいた生活技術を応用して、サービス産業の支援を行う。東京に集積している健康・医療・福祉機器産業に対して、先端技術を活用した研究開発によって支援を行う。

ウ) 機能性材料分野

幅広い産業への波及効果が高い高機能性材料の開発に取り組み、航空機産業や素材産業などの成長産業に対する中小企業の参入を支援する。

エ) 安全・安心分野

システム安全に基づいた高信頼性技術の開発を行い、製品の安全性向上を支援する。少子高齢化社会で必要となるサービスロボットの安全性評価技術を開発し、信頼性の高いロボット開発を支援する。

基盤研究の成果は、都産技研の技術レベルの向上、対応技術分野の充実、新たな依頼試験項目の追加など中小企業への技術支援につなげていくほか、中小企業との共同研究の実施や外部資金導入研究にも発展させていく。基盤研究の成果を基に、事業化・製品化された件数、共同研究に発展した件数、外部資金導入研究に採択された件数を合わせて、第三期中期計画期間中に100件を目標とする。

評 価	S（中期目標の達成状況が極めて良好である）
<p>■ 第三期中期目標値に対する実績は累計133件であり、中期計画目標値を大幅に上回っている。</p> <p>■ 重点的に取り組むとした4つの技術分野については、基盤研究301件のうち、257件を実施している。</p> <p>■ 所管部長の権限強化をはじめとした基盤研究制度改革を実行するなど、研究を推し進める新しい取組を行っている。</p> <p>⇒様々な制度改革により基盤研究の量的・質的な向上に取り組み、実績を上げていることは高く評価できる。 今後は基盤研究の成果を積極的に中小企業に還元していくことを期待する。</p>	

項目 2（共同研究）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進
1-2 共同研究 基盤研究で得られた研究成果を効率的かつ効果的に実用化へつなげていくため、独自の技術やノウハウを有し意欲のある中小企業や業界団体、大学、研究機関と協力して、共同研究に積極的に取り組む。共同研究の実施により、第三期中期計画期間中に製品化又は事業化に至った件数については、33件を目標とする。 共同研究機関の共同研究による製品化・事業化を把握できる仕組みを導入する。

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
	<ul style="list-style-type: none">■ 中小企業等との共同研究により製品化・事業化した件数は累計43件と、中期計画目標値を大きく上回っている。■ IoTやプラスチック代替素材等といった時勢を捉えた新しいテーマに関する共同研究を実施している。 <p>⇒中期計画目標値を超える実績を上げていることは評価できる。 また、プラスチック代替素材の開発はSDGsに資する取組として評価できる。 今後は非接触技術のニーズの高まりが予想されることから、引き続きIoT分野における支援を実施していくことを望む。</p>

項目 3 (外部資金導入研究・調査)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置	
1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進	
1-3 外部資金導入研究・調査 都産技研が保有する研究成果を基に、科学技術研究費や産業振興を目的とする外部資金等に積極的に応募し採択を目指す。外部資金を導入した研究・調査を実施した成果をもって、中小企業のニーズや社会的ニーズの解決に応じていく。外部資金導入研究・調査の採択件数については、第三期中期計画期間中に 70 件を目標とする。	
評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
<p>■ 外部資金獲得に向け、職員への研修や指導を充実させるとともに、申請書の査読・ブラッシュアップ体制の強化などの取組を積極的に実施している。</p> <p>■ 戦略的な外部資金獲得活動の成果として、中期計画目標値を大幅に超える実績を達成している。</p> <p>⇒戦略的な外部資金獲得活動の成果として中期計画目標値を大幅に超える実績を達成していることは評価できる。 第四期も積極的に外部資金の獲得に努められたい。</p>	

項目 4 (ロボット産業活性化事業)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進
1-4 ロボット産業活性化事業 今後の少子高齢化対策並びに生活の質の向上対策として期待されているロボット産業の活性化事業を実施し、中小企業や大学との共同研究を通じた事業化・産業化を推進する。また、ロボット産業の活性化に必要な産業人材を育成する。

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
	<ul style="list-style-type: none">■ 中小企業等との公募型共同研究等を実施し、製品化・事業化を 29 件達成している。■ ロボット産業の人材育成に向けて、SIer(System Integrator)人材を育成する事業を実施している。■ ロボットの社会実装に向けて公共施設での試験運用を行うなど、社会実装を見据えた支援を展開している。 <p>⇒中小企業等との共同研究の成果として、多くの製品化・事業化を達成するにとどまらず、社会実装に向けた支援まで実施していることを評価。 今後はポストコロナ社会のニーズに応じて、ロボットを含めた非接触技術の必要性が増すことから、ロボット産業分野に対する支援を継続していくことが望まれる。</p>

項目 5（生活関連産業の支援）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進
1-5 生活関連産業の支援 クールジャパン製品に代表されるように、生活関連製品の付加価値向上の重要性が増していることから、感性工学など新たな産業技術にもとづく開発促進および製品評価に係る技術支援サービスを実施する。

評価	B（中期目標の達成状況が概ね良好である）
	<ul style="list-style-type: none">■ 新たに人間の動作解析に特化した機器を整備した「生活動作計測スタジオ」の開設により、これまでにない新たな製品化支援を行っている。■ 全国の公設試験研究機関と連携し、各機関が保有する人間工学に関する機器の情報を横断的に提供するデータベースを構築し、ウェブで公開することで広く利用者の利便性向上に取り組んでいる。 <p>⇒引き続き感性工学や人間工学に基づく研究開発支援を継続していくことを望む。</p>

項目 6 (技術相談)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-1 技術的課題の解決のための支援(技術相談) ものづくりの基盤的技術分野の技術支援ニーズのみならず、環境、生活技術、安全・安心など都市課題の解決に向けた幅広い技術支援に取り組む。 本部に設置した総合支援窓口の取組みを継続し、複数技術分野にまたがる相談への一括対応などサービス機能の総合化を図り、お客様へのワンストップサービスを継続する。 中小企業の現場での支援が必要な場合は、職員や専門家を現地に派遣する実地技術支援を実施する。都産技研が保有していない技術分野の相談があった場合は、専門家への委嘱あるいは他の試験研究機関や大学へ紹介するなどお客様の利便性向上に努める。 技術相談件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 120,000 件を目標とする。

評 価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)																							
<p>■ 技術相談の実績は毎年度中期計画目標値を上回っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績 (件)</td> <td>138,165</td> <td>136,666</td> <td>139,835</td> <td>141,673</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 実地技術支援や協定締結機関と連携した相談を実施している。</p> <p>■ 専門相談員による相談対応については、利用実績の相談全体に占める割合が低調であった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績 (件)</td> <td>128</td> <td>215</td> <td>257</td> <td>190</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒都産技研の支援の入口として引き続き利用者に寄り添った相談支援を行われない。 また、専門相談員による相談対応については、実績を踏まえ見直しを検討されたい。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績 (件)	138,165	136,666	139,835	141,673		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績 (件)	128	215	257	190
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																				
実績 (件)	138,165	136,666	139,835	141,673																				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																				
実績 (件)	128	215	257	190																				

項目 7 (依頼試験)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために
とるべき措置

2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援

2-1 技術的課題の解決のための支援(依頼試験)

製品の品質・性能証明や事故原因究明など都内中小企業の技術的課題の解決及び高品質高性能、高安全性など付加価値の高いものづくりを支援できるよう、依頼試験の充実を図るとともに、効果的な技術的アドバイスを実施する。JIS等に定めのない分析・評価など、お客様の個別の試験ニーズに対しては、オーダーメイド試験により柔軟に対応する。

膨大かつ多様な試験ニーズに対応するため、首都圏公設試連携体（以下「TKF」という。）に参加している近隣の公設試験研究機関と連携し、お客様の相互紹介を行うなどのサービスを実施する。

中小企業の海外取引の拡大や高度化する製品開発に伴って必要となる品質証明に関するニーズに対応し、公的試験研究機関としての信頼の維持向上を図るため、機器の保守・更新、校正管理をより適切に行う。試験所認定を受けた登録分野の技術支援を実施することで、依頼試験の高品質化を進める。

高付加価値な製品の開発に必要となる高度かつ多様な試験ニーズに対応するため、試験項目の追加等を適宜行うとともに、全国の公設試験研究機関にはない都産技研の特徴ある技術分野（非破壊透視試験、音響試験、照明試験等）については、試験精度の向上や試験内容の充実を図るなど一層高品質なサービスの提供に努める。都産技研の特徴ある技術分野が依頼試験全体に占める割合については、第三期中期計画期間の最終年度である平成32年度の年間実績で23%を目標とする。

(項目 7)

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)			
<p>■ 試験項目を追加するだけでなく利用件数の少ない試験項目を廃止するなど、ニーズを踏まえた試験体制を構築するため不断の見直しを行っている。</p> <p>■ 中期計画目標値として設定しているブランド試験実施割合については、目標期間を通じて、目標を超える水準の実績を出しており、付加価値の高い製品づくりを支援している。</p> <p>■ 依頼試験の実績は高水準であるとともに、第二期実績平均を大きく超える実績を達成している。</p>				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績 (件)	143,466	143,093	148,809	143,141
<p>⇒多様なニーズを踏まえた試験内容の見直しを行いつつ、高い支援実績を上げていることは評価できる。</p>				

項目 8 (機器利用サービスの提供)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(機器利用サービスの提供) 中小企業では導入が困難な測定機器や分析機器を整備し、中小企業における新製品・ 新技術開発のために機器の直接利用のサービスを提供する。利用に際しては、職員の豊 富な知識を活かして、的確な機器利用に関する指導・助言を行う。 高度な先端機器についても、利用方法習得セミナーを開催して機器利用ライセンスを 発行する制度により、中小企業の機器利用の促進を図る。 都産技研ホームページ(以下、「都産技研 HP」という。)を活用し、利用可能情報を 提供するなど、機器利用に際しての利便性向上を図る取り組みを継続する。

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)													
<p>■ 中期目標期間を通じて第二期中期目標期間の平均実績を超える高い機器利用 実績を達成している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">平成 28 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 29 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 30 年度</th> <th style="text-align: center;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">実績 (件)</td> <td style="text-align: center;">134,285</td> <td style="text-align: center;">144,737</td> <td style="text-align: center;">157,541</td> <td style="text-align: center;">140,901</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 機器利用に関して指導・助言を実施し、機器利用ライセンス制度の利用も進め ている。</p> <p>■ 都産技研ホームページを活用し随時機器利用可能情報の提供やオンライン予 約を行っている。</p> <p>⇒中期目標期間を通じて高い利用実績を達成していることは評価できる。 引き続き利用者の利便性向上を図る取組を行うことを期待する。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績 (件)	134,285	144,737	157,541	140,901
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度										
実績 (件)	134,285	144,737	157,541	140,901										

項目9（3Dものづくりセクター）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(3Dものづくりセクター)
<p>アディティブマニュファクチャリング設備により試作・製作支援、三次元CADデータ作成等のデジタルエンジニアリング支援を行うための「3Dものづくりセクター」を開設し、3D技術やリバースエンジニアリングを活用した製品開発を総合的に支援する。「3Dものづくりセクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成32年度の年間実績21,100件を目標とする。</p>

評 価	S（中期目標の達成状況が極めて良好である）													
<p>■ 中期計画目標値を超える高い支援実績を出している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">平成28年度</th> <th style="text-align: center;">平成29年度</th> <th style="text-align: center;">平成30年度</th> <th style="text-align: center;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">実績（件）</td> <td style="text-align: center;">24,448</td> <td style="text-align: center;">24,033</td> <td style="text-align: center;">28,209</td> <td style="text-align: center;">36,202</td> </tr> </tbody> </table>						平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	実績（件）	24,448	24,033	28,209	36,202
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度										
実績（件）	24,448	24,033	28,209	36,202										
<p>■ 3Dものづくりセクターを開設し、AM技術やリバースエンジニアリング技術の活用により、中小企業の製品化プロセスの短縮に寄与している。</p> <p>⇒中期計画目標値を超える高い支援実績を出していることは高く評価できる。 今後とも、3D造形技術の急速な技術進歩に合わせて、設備の更新や技術レベルの向上に力を入れることが望まれる。</p>														

項目 10（先端材料開発セクター）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(先端材料開発セクター) 機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発に用いる高度先端機器を集中配置した「先端材料開発セクター」を開設し、中小企業による高度な研究開発や技術課題の解決を支援する。「先端材料開発セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 7,600 件を目標とする。

評 価	A（中期目標の達成状況が良好である）													
<p>■ 利用実績が中期計画目標値を超える高い水準を達成している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">平成 28 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 29 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 30 年度</th> <th style="text-align: center;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">実績（件）</td> <td style="text-align: center;">5,792</td> <td style="text-align: center;">5,487</td> <td style="text-align: center;">7,876</td> <td style="text-align: center;">8,001</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 研究にも積極的に取り組んでおり、特許出願や論文掲載といった成果も多数出している。</p> <p>⇒中期計画目標値を超える実績を出していることは評価できる。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績（件）	5,792	5,487	7,876	8,001
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度										
実績（件）	5,792	5,487	7,876	8,001										

項目 1 1 (複合素材開発セクター)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(複合素材開発セクター)
産業用繊維や炭素繊維などの複合素材の開発を支援するため、多摩テクノプラザに「複合素材開発セクター」を開設し、成長産業へ参入を希望する中小企業の支援を行う。「複合素材開発セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 19,500 件を目標とする。

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)													
<p>■ 中期計画目標値を超える支援を実施している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 20%;">平成 28 年度</th> <th style="width: 20%;">平成 29 年度</th> <th style="width: 20%;">平成 30 年度</th> <th style="width: 20%;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">実績 (件)</td> <td style="text-align: center;">15,854</td> <td style="text-align: center;">19,731</td> <td style="text-align: center;">20,176</td> <td style="text-align: center;">23,083</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 複合素材開発セクターを開設し、CFRP や小型燃料電池といった機能性材料も多数開発している。</p> <p>⇒中期計画目標値を超える支援実績があることは評価できる。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績 (件)	15,854	19,731	20,176	23,083
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度										
実績 (件)	15,854	19,731	20,176	23,083										

項目 1 2 (オーダーメイド開発支援)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(オーダーメイド開発支援) 中小企業が自社製品を開発する際の上流工程の技術課題解決に対応するため、オーダー メイド開発支援を実施し、新製品や新技術の開発を支援する。オーダーメイド開発支援 の件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 450 件 を目標とする。

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)			
<p>■ 中期計画目標値を上回る支援実績を達成しており、個々の企業のニーズに明確 に応えることで、多くの製品化・事業化の事例を創出している。</p>				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績 (件)	450	520	504	592
<p>■ 中小企業のニーズに的確に対応した支援を実施し、アウトカム調査における目 的達成度は高い評価を得ている。</p> <p>⇒目標値を上回る支援実績を達成していることは評価できる。 第四期に向けては、より都産技研の支援能力を発揮していくことを期待する。</p>				

項目 1 3 (製品開発支援ラボ)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
<p>2-2 製品開発、品質評価のための支援(製品開発支援ラボ)</p> <p>新製品・新技術開発を目指す中小企業の研究・実験スペースへのニーズに対応するため、本部の製品開発支援ラボ 19 室に加えて多摩テクノプラザの製品開発支援ラボ 5 室を引き続き利用に供する。</p> <p>共同研究企業が無料で利用可能な共同研究開発室を 3 室設置し、共同研究の成果を活用した迅速な製品の開発を促進する。</p>

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)
<p>■ 本部、多摩テクノプラザともに中期計画期間中の平均入居率 90%以上を達成している。</p> <p>■ ラボ入居企業に対する産技研の手厚いサポートにより、製品化・事業化を着実に支援しており、製品の売上増加や入居企業の躍進にもつながっている。</p> <p>⇒ラボ入居企業が都産技研の支援を受け育ってきていることは評価できる。第四期に向けては研究開発型スタートアップ企業に対する支援も充実させていくことを望む。</p> <p>また、入居企業が躍進を遂げることができるよう、きめ細かい支援を実施していくことを望む。</p>	

項目 1 4（実証試験セクター）

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援
2-2 製品開発、品質評価のための支援(実証試験セクター) 中小企業の安全で信頼性の高い製品開発のために必要な温湿度、振動、衝撃、劣化、ノイズ等の試験を行う際に、技術相談、依頼試験、機器利用を一貫して支援することができるよう、環境試験機器を「実証試験セクター」に集約し、迅速かつ効率的な試験サービスを提供する。「実証試験セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 48,000 件を目標とする。

評 価	A（中期目標の達成状況が良好である）													
<p>■ 中期計画目標値を上回る利用実績を達成している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績（件）</td> <td>68,123</td> <td>74,969</td> <td>70,891</td> <td>62,481</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 利用者のニーズを捉えた環境試験機器の大幅なリニューアルを実施している。</p> <p>⇒中期計画目標値を超える利用実績が出ていることは評価できる。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績（件）	68,123	74,969	70,891	62,481
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度										
実績（件）	68,123	74,969	70,891	62,481										

項目 15 (技術経営支援)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える連携の推進
2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援(技術経営への支援) 中小企業が自社の「技術力」を強力な経営基盤として活用し、戦略的な事業展開や技術経営手法の導入等に活かしていけるよう、公益財団法人東京都中小企業振興公社(以下、「中小企業振興公社」という。)などの経営支援機関と連携して、セミナーの開催や企業への実地技術支援等を行う。 都産技研の成果として蓄積した優れた新技術や技術的知見を、中小企業の技術開発や製品開発に活かすため、知的財産権の出願やそれらを活用する使用許諾を推進する。第三期中期計画期間中に都産技研の知的財産権を中小企業等へ実施許諾する件数については、30件を目標とする。

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
<p>■ 知的財産権の実施許諾件数は累計 45 件であり、中期計画目標値を超える実績となっている。</p> <p>■ 中小企業振興公社等の経営支援機関との連携を深め、セミナーや実地技術支援等様々な場面で着実に連携支援を実施している。</p> <p>⇒実施許諾件数が高水準であることは評価できる。</p>	

項目 16 (技術審査)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える連携の推進
2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援(技術審査への貢献) 東京都や自治体、経営支援機関等が実施する中小企業等への助成や表彰などの際に行われる技術審査に積極的に協力する。 公的試験研究機関として公平・公正・中立な審査を効率的に行えるよう、学会や展示会などでの最新の技術情報の収集・研究や研修等の実施により審査スキルの向上に努める。

評 価	A (中期目標の達成状況が良好である)													
<p>■ 技術審査について、東京都をはじめとする団体等から事業を受託することで、着実に審査件数を伸ばしている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">平成 28 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 29 年度</th> <th style="text-align: center;">平成 30 年度</th> <th style="text-align: center;">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">実績 (件)</td> <td style="text-align: center;">5,200</td> <td style="text-align: center;">5,508</td> <td style="text-align: center;">5,859</td> <td style="text-align: center;">5,667</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 技術審査の審査スキル向上のため、積極的に学会や講習会等に参加している。</p> <p>⇒技術審査の件数は第二期と比べると大幅に増えており、都産技研の技術力の高さを裏付けるものである。技術審査スキルの向上に努めながら、多くの技術審査を実施していることは評価できる。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績 (件)	5,200	5,508	5,859	5,667
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度										
実績 (件)	5,200	5,508	5,859	5,667										

項目 17 (海外展開技術支援)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える連携の推進
2-4 中小企業の海外展開を支える技術支援
(1) 国際規格対応への支援 <p>中小企業が製品輸出や海外進出などを行う際に、相手国の規格への適合性を確認するための測定や分析の必要性などの情報が中小企業に十分に提供されていない現状を踏まえ、国際規格に関する相談や国際規格の動向に関するセミナーを実施し、海外展開を目指す都内中小企業を支援する。</p> <p>中小企業の海外展開等で必要となる国際規格に対応した試験により都内中小企業の海外展開支援をすすめる。第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 4,000 件を目標とする。</p>
(2) 海外支援拠点による支援 <p>今後の市場拡大が期待される海外に展開する中小企業に対し現地技術支援を実施するとともに、海外の現地情報を都内中小企業へ情報提供し海外展開支援を実施する。</p>

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)			
<p>■ 中期計画目標値を設定している国際規格に対応した依頼試験は目標値を大幅に超えた実績を出している。</p>				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績 (件)	6,087	6,649	6,358	6,007
<p>■ バンコク支所においてオンラインによるオーダーメイドセミナーを実施するなど、駐在員の担当外である技術分野にも対応できる体制を構築している。</p>				
<p>■ バンコク支所においては中小企業振興公社等と連携したセミナー等を実施している。技術相談についても一定の実績を得ている。</p>				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績 (件)	233	265	250	240
<p>⇒中期計画目標値を超える支援実績があることは評価できる。 バンコク支所については支援実績を踏まえて今後の体制について検討されたい。非対面の支援実施の観点から、引き続きオンラインによるセミナー開催を検討されたい。</p>				

項目 18 (産学公金連携による支援)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
3 多様な主体による連携の推進
3-1 産学公金連携による支援 本部に開設した「東京イノベーションハブ」において、中小企業と大学、学協会、研究機関との連携を促進するセミナーや交流会、展示会を開催し、産学公連携支援を推進する。 公立大学法人首都大学東京（以下「首都大学東京」という。）など豊富な技術シーズを有する大学や研究機関と中小企業とのマッチングの場を提供する。 企業同士の連携に意欲のある企業に対して、異業種交流会や技術研究会の設立支援、業界団体との業種別交流会の開催等を継続実施し、単独企業では困難な技術的課題の解決や新製品・新技術開発を促進する。 中小企業の製品開発や事業化が円滑に進むよう、金融機関など支援機関と連携した取り組みを行う。

評価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)
<p>■ ビジネスマッチング会を主催し成約につなげるなど、産学公金連携の取組を成果につなげている。</p> <p>■ 金融機関や大学など多様な主体との連携支援に取り組み、円滑な支援を行っている。</p> <p>⇒第四期に向けては、中小企業の新たな製品開発・事業化に向け、さらなる取組を期待する。</p>	

項目 19 (行政及び他機関との連携)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
3 多様な主体による連携の推進
3-2 行政及び他の支援機関との連携による支援 区市町村やそれらの自治体が運営する中小企業支援機関が開催する展示会及びセミナーへの参加の要請や、職員派遣の要請等にきめ細かく対応することで、地域における産業振興の取組みに貢献するとともに都産技研の利用促進を図る。 公設試験研究機関が相互に連携・補完して広域的に中小企業の支援を実施しているTKFの活動を継続することにより、広域的なワンストップサービスを確保し、中小企業への技術支援の充実を図る。 都産技研を利用した中小企業において、製品化や事業化の際に生じる開発資金の調達、販路の開拓などが円滑に進められるよう、中小企業振興公社等の経営支援機関と連携して技術と経営の両面から総合的な支援に努める。

評価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)
<p>■ 大学等多様な機関との連携協定の締結を進め、協定締結機関から都産技研の支援事業を広く紹介してもらうことで、利用促進に努めている。</p> <p>■ 中小企業振興公社と連携し、技術と経営の両面から支援を行い、製品化の事例を創出している。</p> <p>⇒引き続き多様な機関と連携し、中小企業に対する技術支援を積極的に実施してすることを期待する。</p>	

項目 20 (産業人材の育成)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
4 東京の産業を支える産業人材の育成
<p>4-1 技術者の育成</p> <p>新技術、産業動向、国際化対応などに関するセミナーや実践に役立つ講習会の開催により、中小企業の新製品・新サービスの創出を担う人材育成を進めるとともに、研究開発や製造技術の高度化を担う中小企業の産業人材の育成を支援する。</p> <p>4-2 関係機関との連携による人材育成</p> <p>首都大学東京をはじめとする大学、学術団体、業界団体、行政機関等が実施している産業人材育成の取組みに対して、職員の講師派遣、インターンシップによる学生の受入れなどで積極的に協力する。</p> <p>サービス業や卸売業・小売業においても、製品の製造や品質管理に関する知識を有する人材育成が必要となっていることを踏まえ、都産技研の設備や人材を活かした実践的なセミナーを実施する。</p> <p>個別企業や業界団体等の人材育成ニーズに対して、希望に対応したカリキュラムを編成するオーダーメイドセミナーを実施し、人材育成ニーズにきめ細かく対応する。</p> <p>4-3 海外展開に必要なグローバル人材の育成</p> <p>中小企業が海外へ事業を展開する際には現地の経営環境や市場動向に詳しい人材の育成が必要であることを踏まえ、金融機関などの連携締結機関の情報や他の産業支援機関を活用した実践的なセミナーを実施する。</p>

評 価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)			
<p>■ 技術セミナーでは一定の実績値を確保しつつ、最先端の技術をテーマにするなど、質の向上も図っている。</p>				
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績 (件)	174	176	152	124
<p>■ 研修学生やインターンシップの受け入れを積極的に実施し、次世代の産業人材育成を進めている。</p> <p>⇒引き続きセミナー等の実施により産業人材の育成に貢献するとともに、第四期に向けては学生の受け入れに関する取組を一層進めていくことを望む。</p>				

項目 2 1 (情報発信・情報提供)

I 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置
5 情報発信・情報提供の推進
<p>5-1 情報発信</p> <p>東京都、区市町村、中小企業振興公社、商工会議所、商工会などの支援機関等が実施する講演会、イベント・展示会への参加を通じ、都産技研の事業を積極的に PR し利用拡大につなげる。</p> <p>都産技研が開催する研究発表会と、TKF 参加の各公設試験研究機関等が行う研究発表会の間で、相互に発表者を派遣し合うなど、多様な連携により研究機関が保有する技術シーズや研究成果を広く中小企業に発信する。</p> <p>5-2 情報提供</p> <p>中小企業の製品開発や生産活動に役立つ以下の情報をインターネットや技術情報誌等の広報媒体により速やかに提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発の成果 ・ 保有する技術情報やノウハウ ・ 依頼試験や設備機器の利用に関する情報 ・ 産業人材育成に関するセミナー開催情報 ・ 共同研究や受託研究の公募に関する情報 ・ 最近の国内外の技術動向等に関する情報

評価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)																		
<p>■ プレス発表を積極的に実施し、記事掲載率も高水準となっている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績(ウェブ) (%)</td> <td>71</td> <td>67</td> <td>93</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>実績(新聞等) (%)</td> <td>54</td> <td>56</td> <td>78</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 都産技研のウェブサイトの改善や動画投稿サイトの活用などインターネットを活用した広報にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>⇒今後とも多様な成果を積極的に外部へ発信していくことを望む。</p>						平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績(ウェブ) (%)	71	67	93	97	実績(新聞等) (%)	54	56	78	91
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度															
実績(ウェブ) (%)	71	67	93	97															
実績(新聞等) (%)	54	56	78	91															

項目 2 2（組織体制及び運営、効率化、経費削減）

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織体制及び運営

1-1 機動性の高い組織体制の確保

都内各地の産業特性を考慮しながら、社会経済情勢や中小企業の変化する技術ニーズに的確に対応できる機動性の高い執行体制を確保するため、地方独立行政法人のメリットを活かした柔軟かつ迅速な経営判断により、組織体制を弾力的に見直していく

1-2 適正な組織運営の確保

地方独立行政法人法の主旨に則った事業経費の適切な執行管理を行うとともに、事業別のセグメント管理により、各事業において投入した経営資源と事業効果を検証し、技術支援事業と研究開発事業とのバランスの取れた事業執行をめざすなど、都内中小企業に対して高品質な技術支援サービスを安定的かつ継続的に提供する適切な組織運営を実施する。

1-3 職員の確保・育成

技術革新の著しい産業や技術に対し将来を見据えた中長期的な視点に立って、必要とされる技術を適時に中小企業に対して提供できるよう、大学訪問などの積極的なリクルート活動により優秀な研究職員を計画的に採用する。

地方独立行政法人の機動的で柔軟な組織運営に必要な事務職員についても、計画的に確保していく。

地方独立行政法人の任用・給与制度の特徴を活かして、公平な業績評価とその昇給等への適切な反映により、職員一人ひとりのモチベーションを高めるとともにそのレベルアップを進め、組織運営の効率化や、技術支援及び研究開発の水準の向上を図る。

中小企業のグローバル化を適切に支援していくため、職員の海外での学会参加による情報収集などを通じて国際規格の相談に対応できる職員の確保・育成に努める。

1-4 情報システム化の推進・情報セキュリティ対策の徹底

ネットワークやインターネット、人事・庶務システムなどの都産技研の業務運営に欠かせない情報システム基盤を活用し、情報システムの利便性向上、業務の効率化、セキュリティの向上等を図る。

テレビ会議システムによる遠隔相談等を実施し、お客様へのサービスの向上に努める。

海外展開を支援する海外支所とのネットワーク化を推進し、利便性及びセキュリティの向上を図る。

2 業務運営の効率化と経費節減

2-1 業務改革の推進

お客様へのサービスの向上、業務の効率化、経費の削減等を目的として、組織と職員からの提案による業務内容や処理手続きの見直し等の業務改革を推進し、外部機関や専門家の活用も含め高い経営品質の実現や利用者満足度の向上を目指す。

2-2 財政運営の効率化

標準運営費交付金（プロジェクト的経費を除く。）を充当して行う業務については、中小企業ニーズの低下した業務の見直しや複数年契約の推進等により、毎年度平均で前年度比一パーセントの財政運営の効率化を図る。

評価	B（中期目標の達成状況が概ね良好である）
<p>■ 地方独立行政法人法の改正を踏まえ、内部監査室を設置するなどコンプライアンスに関する取組を積極的に進めている。</p> <p>■ 組織の効率的な執行体制の確保と新たなニーズへの対応を目指し、組織の新設や統合を進めている。</p> <p>⇒ 今後は、内部監査室を中心として法人の業務等に係る監査の指摘等も踏まえ、一層の内部統制の強化に向けた取組を望む。</p>	

項目 2 3 (適正な資産管理等)

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項	
1 資産の適正な管理運用	
安全かつ効率的な資金運用管理を推進し、建物、施設については、計画的な維持管理を行うとともに、設備機器については校正・保守・点検を的確に行うことにより国内規格や国際規格に適合する測定等が確実に実施できるよう管理運用する。	
2 剰余金の適切な活用	
的確な経営判断に基づき、新しい事業の開始、研究開発の推進、設備の更新・導入などにより、都内中小企業に提供するサービス水準の向上を図るとともに、事業実績や成果の向上につながるよう、剰余金を有効に活用する。	
Ⅳ 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画	
Ⅴ 短期借入金の限度額	
Ⅵ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画	
Ⅶ 剰余金及び積立金の使途	
1 剰余金の使途	
当該中期目標期間の決算において剰余金が発生した場合、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。	
2 積立金の使途	
前期中期目標期間の最終年度において地方独立行政法人法第 40 条第 1 項又は第 2 項の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち設立団体の長の承認を受けた金額について、中期計画の剰余金の使途に規定されている、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。	
Ⅷ その他業務運営に関する重要事項	
1 施設・設備の整備と活用	
業務の確実な実施と機能向上のための施設・設備の整備を計画的に実施する。実施に当たっては、東京都からの施設整備補助金等の財源を確保し、先端技術への対応や省エネルギー対策を含めた総合的・長期的観点に立った整備・更新を適切に行う。	

評 価	B (中期目標の達成状況が概ね良好である)
<p>■ 設備機器の校正・保守を運用ルールに則り、適切かつ効率的に実施している。</p> <p>■ 積立金の活用により中小企業支援を充実させる機器整備を実施している。</p> <p>⇒引き続き適切な設備機器の校正・保守を実施されたい。</p>	

項目 2 4（危機管理対策、社会的責任）

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項	
2 危機管理対策の推進	
個人情報や企業情報、また製品開発等の職務上知り得た秘密については、適正な取扱いと確実な漏洩防止を図るために、全職員の受講を必須とする研修を実施する。	
健全な事業活動の確保や事故・事件の未然防止を図るため、環境保全や規制物質管理、労働安全衛生に関する法令を遵守し、危険物、毒劇物の管理と取扱い、災害に対する管理体制を確保するとともに、防災訓練等の実施や職員に対する意識向上のための研修を実施する。	
震災の発生や新興感染症の流行などに備え、対応策を定めるとともに、万が一発生した場合には、被害拡大の防止に向けた対策を実施する。	
緊急事態の発生を想定し、対策委員会の設置、緊急連絡網の設定、通報訓練の実施等をマニュアルとしてまとめるなど、迅速な情報伝達・意思決定に向けた管理体制の整備を図る。	
3 社会的責任	
3-1 情報公開	
公共性を有する法人として、運営状況の一層の透明性を確保するため、都産技研 HP や刊行物の発行等により経営情報の公開に取り組む。	
事業内容や事業運営状況に関する情報開示請求については、規則に基づき迅速かつ適正に対応する。	
3-2 環境への配慮	
法人の社会的責任を踏まえ、省エネルギー対策の推進、CO ₂ 削減等、「環境方針」に沿った取組により環境負荷の低減や環境改善に配慮した業務運営を行う。	
3-3 法人倫理	
都民から高い信頼性を得られるよう、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章」等を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、職務執行に対する中立性と公平性を確保しつつ、高い倫理観を持って業務を行う。	

評 価	B（中期目標の達成状況が概ね良好である）
■ 危機管理対策としてコンプライアンス研修や防災訓練などに着実に取り組んでいる。	
■ 法人としての社会的責任を全うできるよう、積極的な情報公開や法人倫理の徹底に取り組んでいる。	
⇒引き続き、危機管理対策や社会的責任に高い意識を持って取り組むこと。	